

[自主研究]

生態園における昆虫類等多様性モニタリング調査

嶋田知英 小川和雄 三輪誠 長田泰宣

1 目的

埼玉県環境科学国際センター内にピオトープとして整備された生態園は、今後、様々な昆虫や鳥類が侵入定着し、新たな生態系がたち作られることが期待されている。そこで、生態園管理のための基礎的資料を得るとともに、新たなピオトープ創造に必要な情報を収集するため、野生生物の発生経過を調査した。

2 方法

2.1 調査地点

調査は埼玉県環境科学国際センター生態園、及び生態園のモデルとなった騎西町内の玉敷神社及び中の目の湿地で行った。

2.2 調査方法

鳥類及びチョウ、トンボの個体数を、ライントラセクト法により調査した。調査間隔は生態園では概ね1週間、玉敷神社、中の目の湿地は2週間とした。定期調査以外にも、適宜巡回し、出現した鳥類、チョウ、トンボの種類を記録した。

3 結果

2001年1月より2002年2月までに生態園で確認した鳥類、チョウ、トンボは、それぞれ39、37、14種(表1、2)であり、2000年の調査に対し、それぞれ10、11、2種が新たに確認された。

最も優占していた鳥類は、スズメで、総個体数の25.9%を占め、続いてムクドリ13.3%、カルガモ10.3%、ヒヨドリ10.3%であった。また、チョウでは、モンシロチョウが最も優占し、30.0%を占め、ツバメシジミ11.8%、コムシジミ8.9%と続いた。トンボではアカアカナ、コシアキトンボ、ノシメトンボが優占し、3種で71.7%を占めた。

モデルとなった玉敷神社及び中の目の湿地で確認した鳥類、チョウ、トンボの種類は、それぞれ37、24、7種となり、生態園より若干少なかったが、アカゲラ、カケス、オオタカ、クロヒカゲなど比較的暗い林を好む種がモデルとなった地区のみで確認された。

4 今後の研究方向等

継続的に調査を行い、経時的な動物相の変遷や、生態園とモデル地区との比較などを行う。

表1 埼玉県環境科学国際センター生態園における鳥類の消長

科名	種名	2001年												2002年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
カモ科	カルガモ															
	ホシハジロ															
キツキ科	コゲラ															
	アオサギ															
サギ科	ゴイサギ															
	コサギ															
ダイサギ	ダイサギ															
	チュウサギ															
アト科	カワラヒワ															
	シメ															
カラス科	オオカ															
	ハシボロガラス															
シジュウカラ科	ハシボロガラス															
	シジュウカラ															
セキレイ科	セグロセキレイ															
	ハクセキレイ															
ヒタキ科	オオヨシキリ															
	シロハラ															
ツバメ科	ツバメ															
	スズメ															
ハヤブサ科	ハヤブサ															
	ヒヨドリ															
ホオジロ科	アオジ															
	ホオジロ															
ムクドリ科	ムクドリ															
	メジロ															
モズ科	モズ															
	チヨウゲンボウ															
シギ科	タシギ															
	コチドリ															
ハト科	キジバト															
	シロコバト															
カウセミ科	カウセミ															
	カウ															

表2 埼玉県環境科学国際センター生態園における昆虫の消長

科名	種名	2001年												2002年		
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
アゲハチョウ科	アオスジアゲハ															
	アゲハ															
カラスアゲハ	カラスアゲハ															
	キアゲハ															
シジミチョウ科	クロアゲハ															
	ジャコウアゲハ															
ウラナシジミ	ウラナシジミ															
	ツバメシジミ															
ベニシジミ	ベニシジミ															
	ムラサキシジミ															
ヤマトシジミ	ヤマトシジミ															
	ルリシジミ															
サトキマダラヒカゲ	サトキマダラヒカゲ															
	ヒカゲチョウ															
シロチョウ科	ヒメジャノヒ															
	キチョウ															
スズクシロチョウ	スズクシロチョウ															
	ツマキチョウ															
モンシロチョウ	モンシロチョウ															
	イチモンジセセリ															
セセリチョウ科	キマダラセセリ															
	チャバネセセリ															
タテハチョウ科	アカタテハ															
	アサマイチモンジ															
イトトンボ科	イトトンボ															
	オヤマトンボ															
エゾトンボ科	ウチウヤマトンボ															
	アキアカネ															
トンボ科	ウスバキトンボ															
	コシアキトンボ															
ヤンマ科	シオカラトンボ															
	シオカラトンボ															
ヤンマ科	チョウトンボ															
	ナツアカネ															
ヤンマ科	ノシメトンボ															
	マイコアカネ															
ヤンマ科	ギンヤンマ															
	ギンヤンマ															

は調査時にそれぞれの種が確認されたことを示す。
は今回の調査で新たに確認した種を示す。